

# NEWS LETTER vol. 14 <2008年5月号>

## ■【トピックス】

### 炙り出される無駄使い



ガゾリン税の暫定税率の期限切れ問題や年金記録の照合問題で、これまで明らかにされてこなかった行政の無駄使いが白日の下にさらされました。

これだけでも、ねじれ国会の意味がありました。

あまりに長すぎる政権は、政府にかぎらず民間企業の経営でもよくありません。

これを教訓に改善されるといいのですが、既得権にしがみつ়く人もいますので改革の進みませんね。

## ■【ビジネス・アイ】

### 株券が「無効」に！！

社長 「証券会社からこんなチラシが来たんだけど、どういうことかな？」

花野 「株券電子化のお知らせですね。来年から上場会社の株券が電子化されて、それにもなって紙の株券が廃止されるということですよ」

社長 「ということは、株が無効になっちゃうということなの。そりゃ大変なことだね」

花野 「社長、ちょっと待ってください。株券が廃止されるからといって株式が無効になるわけではないですよ」

社長 「そもそも株式と株券って違うものなの」

花野 「まず、株式は株主としての地位(権利)のことをいいます。この株主としての権利を紙にしたものが株券です。ですから権利を表している紙(証券)が無効になったからといって、すぐにもとになった権利までなくなるわけではないんです」

社長 「そうすると、大騒ぎしなくてもいいんだ」

花野 「そうですね。ただ、タンス株と呼ばれる自宅などに保管している株券の中には問題になりそうなものもあります」

社長 「具体的には、どういうこと？」

花野 「株券の名義が、本人名義になっていないものですね。とりあえず、このような株券があったら、少なくとも名義変更だけはしていた方がいいですね」

社長 「それなら、さっそく手続するよ」

## ■【今月のキーワード】

### 株券電子化

株券電子化とは、社債、株式等の振替に関する法により、上場会社の株券をすべて廃止して、証券保管振替機構及び証券会社等の金融機関に開設された口座において株券を電子的に管理するものです。

これにより、現在証券会社に預けていない株券は来年以降、上場会社が信託銀行等に開設した特別口座で管理されることとなります。

残念ながらこの特別口座では、売買はできませんし、本人名義でない場合にはトラブルになる可能性があります。

## ■【今月の1冊】

### 『日本の中小企業 CRDデータにみる経営と財務の実像』

鹿野嘉昭 著 東洋経済新報社

¥3,360

先進国では、どこの国でも中小企業が経済を支えています。しかし、その実態を正確に反映した統計データがなかったのが日本の実態でした。

ところが、2001年に金融機関の融資先の財務データを集積したデータベースが作られました。

それが本書で分析しているCRDです。これにより初めてわが国の中小企業の実態が明らかになりました。経営者必読の本です。



## ■【編集後記】

今年のゴールデンウィークは、曜日の並びが悪く、例年に比べて短めのところが多いようです。それもあって海外旅行が減っているみたいです。

それでも気持の良い季節には変わりありませんので少しは遠出したい気分です。

## 『NEWS LETTER』vol. 14 (毎月1日発行)

●定価：2,400円/年 ●発行日：2008.5.1 ●発行人：花野康成

●編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア

〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦丸エビル5F

TEL.052-205-6361 FAX.052-204-8808

<http://homepage3.nifty.com/binspire/>